

# Eureka V

六年制通信 No.37 平成30年3月20日(火)号

## 心と行為と

一年が過ぎましたね。桜のつぼみが膨らむ頃、毎年のように、今年もあっという間だったと感じてしまいます。きっと年をとったからでしょうね。また、17日には三重中学校の卒業式が行われました。みんな、大きくなりましたね。小さかったのになあ。

卒業式で、私は「人は行為で判断される」という話をしました。言葉よりも行為が大切であると。英語でも *Actions speak louder than words.* というフレーズがあって、言葉よりも行為の大切さを表わしています。正しい行為をするためには正しく考えることが必要で、考え方を正しく持てば、それが言葉となって、やがて行為となる、そんな話もしました。正しい行為は習慣となり、やがて人の運命に影響を及ぼす。だから皆さんは正しく考えられるように、多くを学ぶ必要がある、そして多くを学ぶためには辛抱強さが必要である、これが卒業式の式辞で述べた概要です。これは何も学生時代に限ってのことではなく、皆さんが大人になって、就職してからも言えることだと思います。迷ったり悩んだり、それは子供の特権ではなく大人になっても、むしろ大人になれば余計に迷いも悩みも深くなるように思います。嫌なこともいっぱいあります。自分の意に沿わないことも山のようにあります。でもそのときの自分の行為が、周囲の人から見て信用するに足る人間なのか、軽蔑の対象となるべき人間なのかを分けるのだと思います。嫌なことから逃げずに（誰かが代わりにそれをするのだから）頑張れる大人になってほしいと思います。自分の殻に閉じこもって、あれは嫌これも嫌、自分にはこれしかできないなどと、一見謙遜しているようなことを言っていながら実はただ困難を避けようとするだけの大人もいます。そういう大人に、つまり周りのことを考えず、自分のパラダイスだけを求めるような、要するにエゴイスティックな人間にならないために、今の君たちは多くを学ばなければいけません。繰り返しますが、そのためには辛抱強く学ぶ姿勢が何よりも大切です。私の尊敬する哲学者は「持続することが全てである」と言いました。それには辛抱する力が必要だと言っておられます。君たちには、三重中高での学びを経て、このことだけでいいから、身につけてほしいと願います。

さて、先日中1の生徒諸君に話す機会があって、私は「腹の中で何を考えていてもいいから、行為（言動）だけはしっかりしなさい。頭で考えていることと違う言動でも構わない。人は言動で判断されるから」という話をしました。ただ、その時はあまり時間がなくてこの続きを言えなかったので、終業式で話そうと思ったのですが、この通信にも書いておきます。

私は卒業生の皆さんには、考え方の正しさが行為となって表現されるという話をしたのですが、つまり考え方が先で行為が後だということなのですが、1年生の諸君には考え方と行為はバラバラでいいと言ったこととなります。これはおかしいと思うかもしれませんが、そうではありません。実は行為が先で、行為が心を作ることがあります。考え方の熟成には時間がかかりますから、それを待って行為を始めるのではなく、まず正しい言動をとって（この段階では感情と行為が違っていてもいいわけです）いくと、それが自分の考え方を正しくしていくことがあるのです。つまり、行為が心を育てることがあります。アメリカの心理学者の実験に、仲の良い友達同士に、例えばお花見の席などでわざと喧嘩をしてもらおうというのがあります。初めはちょっと軽めに叩き合ったりして、一見ふざけているように見えたらしいのですが、かなりの確率で本気の喧嘩に移行していくそうです。そして、これは実験なのだと言ったところでちゃんと理解していても、本当に仲が悪くなる例が見られたというのです。人間で、不思議ですね。今のは悪い例かもしれませんが、行為が心を作るという点では非常にわかりやすい例でしょう。ちょっとした行為、例えばごみを拾ったりすることでさえ、それを積み重ねれば、やがて習慣となり、やがては、そういう心を持った人間になるのだと思います。要するに、空理空論では心を作れないということかな。あるいは実践にまさる教育はないということでしょうかね。

いずれにしても、いくら頭で正しいことを考えていても、行為に表れなければ何の意味もないのです。皆さんも、辛抱強く学ぶことを通して、美しい行為、立派な行為とは何か、逆にみっともない、軽蔑すべき行為とは何かを知っていくことでしょう。美しい心を作るために美しい行為を積み重ねて下さいね。

#### 今週のおすすめ

・杉浦日向子 『一日江戸人』 (新潮文庫)

この人、漫画家なんですね。読んだことないけど。

最近はやや時代劇がちょっと人気ないみたいですが、昔は、例えば年末になると「忠臣蔵」などの大型時代劇が必ずテレビで放映されていました。懐かしいなあ。江戸の文化・風俗研究家に三田村<sup>えんぎょ</sup>鳶魚という人がいて、テレビにおける、あるいは時代劇作家と言われる人たちの作品における、考証の杜撰さを容赦なく指摘しています。ま、つまり嘘ばかり書いてあるのではないかというのです。私も全集を持っていますが、時々頁を開くと、これ、指摘された方は立ち直れないんじゃないかと思うくらい辛辣です。杉浦さんの『一日江戸人』は他の批判など全くなく、実に楽しく江戸の風俗を描いています。知らないことばかりで、またイラストが秀逸で、読んでいて飽きません。将軍の一日なんか、起床時間から食事の内容に至るまで細部にわたってわかりやすく解説されていて、これじゃあ早死にするわと思いましたね。春休みの読書計画にこれも加えてみて下さい。

BGMは山下達郎の *GET BACK IN LOVE* でした…。